

海洋生物調査から見てきた浦富海岸の知られざる海生き物たち

発表者：山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館 太田悠造学芸員

【質問】 新種の命名はしたことありますか？

【回答】 10種類ほどあります。新種の命名は、過去に命名された近縁種を調べて英語の論文で特徴を記載するので、意外と時間がかかるものです。

【質問】 水深80mのような深いところはどうやって調査するのですか？

【回答】 鳥取県の水産試験場で深い水深でカレイなどの資源調査を行っています。その船に便乗して調査しております。

【質問】 ホヤは岩手名物として知られますが、鳥取ではホヤを食べますか？他にホヤを食べる文化を持つ地域はありますか？

【回答】 鳥取では食べませんが、岩手や宮城など東北の太平洋側で養殖し、食べる文化が根付いています。韓国でも養殖されています。養殖はリアス式海岸などの入り組んだ地形で行われます。

【質問】 青いホヤが「モモイロサルパ」という名前だったのですが、どうして「モモイロ」なんですか？

【回答】 モモイロサルパは、写真では光の当たり具合で青く写ってましたが、寒天状の体が淡い桃色がかっています。

【質問】 ・海の中では青色以外は目立たないと聞いたことがありますが、ウミウシはどうして青色をしているものが多いのですか？

・ウミウシはなぜカラフルなのですか？

【回答】 イワシやサバなどの青魚のように青くても、周囲が青ければ目立たないです。目立つウミウシの多くは忌避物質をもっており、魚などが食べても非常に不味いです。そのため、敢えて目立たせている警告色となっています。青いウミウシは岩場にいると非常に目立ちますが、これも警告色と考えられています。

【質問】 ウミウシ、ヒラタブンブク、ナマコなどをペットとして飼うことは可能ですか？

【回答】 ・ウミウシは種によって餌が異なり、皆さんが綺麗と感じているウミウシはカイメンというスポンジ状の生物を食べます。これを飼うのが難しいです。また、短命です。餌と寿命の関係で、頑張っても3、4ヶ月です。

・ヒラタブンブクやナマコは、砂の有機物を食べるだけなので、飼育は容易です。砂を入れて、金魚の餌などを入れておけばOKです。海水はこまめに変えた方がよいです。ナマコは水産上重要な生物で採集は法的に面倒で、漁協から買う方が無難です。

【質問】 ウミウシやその他生物は、調査目的以外でも捕獲することはできるのか？

【回答】 ダイビングだとできないのですが、磯採集でなら可能です。しかし、水産上重要なもの（食べられる生き物）は罰せられます。近くに漁師さんがいる場合は一言言っておくとよいでしょう。

【質問】 珍しい海洋生物が多くいますが、地域の特徴・海流に関係しているのですか？

【回答】 とても関係しています。暖流によって普段は南の海にいるような魚などが回遊してきますし、冬の波浪などで、沖合や深海の生物が漂着します。

【質問】 兵庫県側の玄武岩に棲む海の生物は、花崗岩にいる生物と違うのかな？

【回答】 浦富の花崗岩はボロボロと崩れやすいので、ウニや貝などが穴を掘ったりすることができないようです。玄武岩ではボロボロとならないのでムラサキウニが穴を掘って生息しているところを見たことがあります。生物の種類は同じですが、生活の仕方が異なっています。